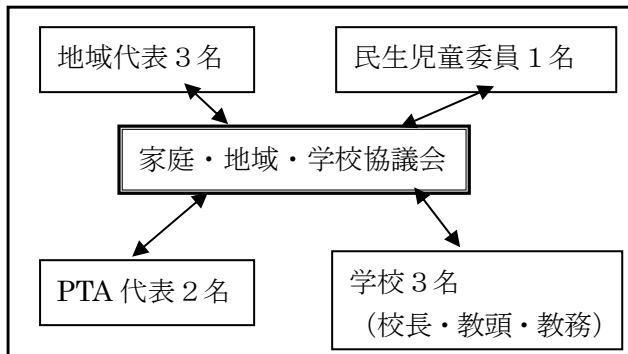


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①開催回数 2回
- ②開催日程 6月, 2月
- ③協議内容
 - ・学校運営に関すること
 - ・家庭・地域・学校の連携に関すること
 - ・学校評価に関すること
 - ・中学校区教育に関すること
 - ・教育ウィークに関すること

地域コーディネーター（3名）…自治会連合会長、地区教育振興会長、元PTA会長

(3) 協議会における成果と課題

スクールプランとともに本校の課題について説明し、意見をいただく場をもった。ご理解をいただき、民生委員などそれぞれの立場から、支援の仕方についてのアドバイスをいただくことができた。特に不登校への取組や働き方改革、地域連携について協議し、手伝ってもらえる人材が必要なことや教員の雑務が多いなどの意見から、人材の紹介等をお願いすることができたり、一覧表から教員の負担を減らしたかたちでの支援を考慮していただいたりできた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域との関わりを通して生徒自らが地域の課題を見つけ、解決に向けた企画・提案を考え、地域に発信しながら地域とともに実現していくことで、自分たちの地域に対する関心を深め、誇りと愛着をもって地域に貢献しようとする生徒を育成する。

(2) 活動の実際

①地域にむけての広報活動(生徒会)

昨年度に引き続き、「明道新聞」を生徒会が発行した。8月のサマーコンサート、9月の学校祭に地域の方に参加いただきたいという生徒達の考えから、編集された。昨年度の反省を踏まえ、本年度は、より通勤者の多い電車通りにまで及んで配布したり、商店街などに貼ってもらったりなどして、昨年度に比べ3倍以上の新聞を地域住民に配布することとなった。教育ウィークでの授業公開も、チラシを地域にも配布し、保護者以外の地域の方も参観に来られた。



②職業調べ・職場体験・立志のつどいに向けた活動（1・2年生）

2年生は、地域の方の協力を得ながら職場体験活動を実施した。公民館での活動では、AED講習会のチラシを作成して全世帯に配布するなど地域に貢献する活動にもなった。その後、職

(様式3)

場体験で学んだことをまとめ、発表した。また実行委員会を立ち上げ、本校と関わりの深い橋本左内先生に学び、自分たちの心構えを新たにすため、立志のつどいを開催した。事前に地域の方に話を伺うなどして調べ学習を行い、自分たちの決意表明につなげた。「立志のつどい」には地域の方にも来ていただき、一人一人が先人に学び志を新たに取組んでいく姿を発信する場となった。



③地域行事へ主体的に参加

順化地区「福井城址お堀の灯り」では、例年放送部が、点灯式の司会進行として参加していた。今年度は希望の灯り設置に、生徒会執行部が参加意向を示し、全校生徒の協力を得ての参加を企画運営した。ろうそくの灯りを活かすため、ラミネートシートに字を書いてペットボトルにかぶせるアイデアを考えたり、設置デザインを美術部に依頼したり、ろうそくの点灯ボランティアを募ったりして、学校全体で参加する活動に広げることができた。

さらに、「足羽川ぼんぼり物語」にも、初めて参加することになり、ぼんぼりの木枠を製作したり、独楽吟をよみ和紙に書いたりして、ぼんぼりを地域の方に教わりながら仕上げた



(3) 地域コーディネーターの活動概要

協議会で地域連携を進めていくとの話し合いから、地区の行事に参加するための、連絡調整をしていただき、運搬の手配など本来学校が準備段階で考え、負担となることを調整してもらった。学校担当教諭への負担が減り、参加しやすくなった。

(4) 特に工夫した事項

- ・学校全体で取り組むための企画立案

福井城址お堀の灯りは、一部の生徒のみが参加していたが、生徒会執行部の企画立案により、全校生徒が関わり、地区の願いである「フェニックスの意味」について知るよい機会となった。自分たちが企画運営したことにより、雨のため設置ができなくなった時、別の機会にでもなんとか設置して披露できないかと子どもたちが考え、学校祭で披露することができた。

(5) 成果と課題

- ・地域のことを知るには、まず地域に自分達のことを発信する必要があることに生徒が自ら気づき、相手意識と目的意識をもって活動に取り組んだことは、生徒が達成感と地域に対する感謝の気持ちをもつことにつながった。
- ・企画力、相手と関わる力、地域に関わる活動への意欲を、中心となる生徒だけでなく他の生徒に広げていくため、生徒同士の繋がりを深める場を工夫していく必要がある。
- ・地域コーディネーターとの連携を密にし、「地域の学校」という意識を高めていく。